

くまがや

平成19年
2007

2 第17号

Kumagaya



主な内容

- P2 県北初の20万都市が誕生します
- 4 身近な環境の研究発表会
- 7 市政ワイド 4月は統一地方選挙ですほか
- 11 市政情報 市・県民税の申告は3月15日までにほか
- 16 ぐらしの情報 催し・講習・募集・スポーツ・相談
- 21 いきいき元気 みんなの健康
- P24 文化施設情報
- 28 くまがやフォトニュース
・市報クイズ・おたよりパレット
- 30 くまがや東西南北
- 31 江南町を紹介します
- 32 夢追い人・フレッシュクッキング

熊谷市と江南町を結ぶ押切橋

2月13日に熊谷市と江南町は合併し、「新熊谷市」が誕生します。県北初の人口20万都市として、更なる発展が期待されます。

主な施設を紹介します

名称・住所は合併後の表記です



① 江南保健センター
江南勤労福祉センター ㊟536-1521 江南中央1-1
1階が江南保健センター、2階が江南勤労福祉センターです。江南勤労福祉センターには、談話室のほか、150人まで利用できる講習室、研修室、和室などがあります。



② 老人福祉センター江南荘 ㊟536-5600 千代118
超音波と気泡が出る浴槽が設置され、230人収容の大広間、機能訓練室、娯楽室、談話室、食堂、売店などがあります。



③ 江南文化財センター ㊟536-5062 千代329
収蔵庫、特別収蔵庫、体験学習整理室、展示室、会議講座室などがあり、資料や発掘品など貴重な文化財を所蔵し、その保存や活用を図ります。



④ 江南総合文化会館 ㊟536-6262 千代325-1
江南公民館 ㊟536-6262 江南図書館 ㊟536-6303
複合施設の名前は「ピピア」で、Pure = 清新さ・純粋さ、Progress = 前進・発展、Active = 活動的、の意味が込められています。移動式観客席を備えた812席のホールを中心に、公民館部分、児童室のある図書館部分に分かれています。



⑤ 江南体育館 ㊟536-5468 江南中央2-3-1
江南体育館は、バスケットボールなら1面、バレーボールなら2面、バドミントンなら6面とれるアリーナを有しているほか、360席の選手控席があります。



県北初の 20万都市が誕生します

平成19年2月13日

今月13日に、熊谷市は江南町と合併します。合併後の面積は159.88km²、人口は204,675人(平成17年国勢調査)となります。これからも合併のメリットを生かして行財政基盤の強化を図ることにより、効率的で充実した行政サービスの維持・向上を目指します。

組織の変更

- 江南行政センターが設置されます。江南町役場が熊谷市役所の支所となり、「江南行政センター」に名称が変わります。
- 教育委員会江南事務所が設置されます。(江南行政センター内) 教育委員会事務局の出先機関となります。
- 消防本部が熊谷市の組織として設置されます。熊谷地区消防組合(熊谷市と江南町で設置)が解散となることから、組合の組織から本市の組織となります。
- 健康スポーツセンターおよび荒川南部環境センターが熊谷市の施設となります。荒川南部環境衛生一部事務組合(熊谷市と江南町で設置)が解散となることから、一部事務組合の施設から本市の施設となります。
- 江南町の施設が熊谷市の施設となります。



江南町役場(合併後:江南行政センター)
㊟536-1521 江南中央1-1
江南行政センター内には、総務税務課、市民環境課、福祉課、産業課、建設課、出納室江南分室、教育委員会江南事務所が設置されます。

施設名	施設名
コミュニティセンター(江南・江南第2)	江南幼稚園
江南保健センター	江南文化財センター
老人福祉センター江南荘	江南総合文化会館
江南保育所	江南公民館
江南デイサービスセンター	江南図書館
江南在宅介護支援センター	江南体育館
江南勤労福祉センター	江南総合グラウンド
江南農業研修センター	

(表は一部の施設です)

事務室の変更

教育委員会社会教育課 文化財保護係の事務室は本庁舎6階から江南文化財センター(3階)「主な施設③」参照)内へ移ります。行政改革推進室 ㊟内線216

江南町との合併に伴い、2月13日から市役所の組織等が一部変わります。

合併に伴うお知らせ

住民基本台帳カード等の発行を停止します

江南町との合併による住民基本台帳ネットワークシステム調整のため、2月13日(火)から16日(金)まで、次の業務を停止します。①住民基本台帳カードの交付②電子証明書の発行③広域交付住民票の発行④付記転入・転出の受付
◆市民課 ㊟内線269
◆妻沼行政センター市民環境課
◆大里行政センター市民環境課

土地の埋立て等の規制に関する条例が施行されます。条例の概要は次のとおりです。

- 500㎡以上の規模で土地の埋立て、盛土およびたい積等を行う場合が対象となり、新たに市長の許可が必要となります。
- 土地の埋立て、盛土、たい積等に関する施工基準を設けます。
- 違反者に対する監督、改善命令等を行い、従わない場合には公表する制度を設けます。
- 違反者に対しては、6か月以下の懲役または50万円以下の罰金を科します。

◆廃棄物対策課 ㊟内線327

子どもたちとふるさとを考える 身近な環境の研究発表会

「身近な環境の研究」は、次の時代を担う子どもたちに、自らの研究成果から今のふるさとを知り、また、地域の人のふれあいから昔のふるさとを知ってもらおうと、熊谷市環境衛生協議会が市内の小学校に地域の環境調査などを依頼するものです。今回は、市田、長井、秦の各小学校に取組んでいたが、研究成果が学校ごとの発表会で報告されました。児童たちの元気

な発表に、来場した皆さんはうなずきながら熱心に耳を傾け、大きな拍手を送っていました。また、発表会には地域の人も参加し、地元の自然や生活習慣の移り変わり、子どものころの思い出話などが語られ、昔の写真が展示されるなど、地域と世代が一体となって環境について考える良い機会となりました。

環境衛生課 圃内線306

市田小学校 大切にしたい 市田の自然

「自然はみんなのもの、大切にしよう」と、地域の人やPT



実りの秋を迎えて(市田小)

TAの人と協力した活動などについて、その成果を発表しました。

♣️ペットボトルで一人一鉢栽培(飼育栽培委員会)

「花と笑顔とあいさつのできる市田っ子」を育てるため、学校を花でいっぱいしよう」と、全児童に呼びかけ、ペットボトルを利用した一人一鉢栽培に取組みました。

♣️アサガオを育てたよ(1年生)

種まき、水やりと一生懸命育てたアサガオの花が咲いたときの喜

びは忘れられません。押し花やたたき染めをし、たくさん取れた種は新1年生にプレゼントすることにしました。

♣️ミニトマトとサツマイモを育てたよ(2年生)

地域の畑の先生・飯田さんの指導で、ミニトマトとサツマイモを育てました。真っ赤なトマトはとてもおいしく、たくさん取れたサツマイモで芋パーティーを楽しみました。

♣️生き物や植物を育てたよ(3年生)

いろいろな草花を育て、夏にはきれいな花がたくさん咲きました。また、チョウを卵から成虫

♣️牛乳パックの回収で再資源化(給食委員会)
給食委員会が中心となり、各学級で牛乳パックの回収を行い、紙の再資源化に取組みました。
また、給食の残量調べの結果、市田小は給食を残す児童が少ないことがわかりました。
♣️地域・PTAの支援活動
地域の経験豊かなお年寄りの協力により、米づくりを体験学習し、昔遊びや道具の使い方を学ぶことができました。
また、PTAの積極的な協力により、通学路を清掃する「地域クリーン大作戦」や学校内の環境美化、資源回収を実施しました。



みんなで楽しい餅つき大会(市田小)

このように、たくさんの方の協力により、世代間・地域内交流が図られ、みんなで身近な環境を守っていくという意識が子どもたちに芽生え、引き継がれていくものと思います。

長井小学校 安全は、水と土から見えてくる 水と土から学ぶ 環境を学ぶ

地域を流れる川の水環境調査や生ごみ・落ち葉・稲わらなどを堆肥として再利用する方法を研究し、身近な環境問題について気付き、考えたことを発表しました。

♣️生ごみなどの堆肥化(3年生)

ミミズが落ち葉などを土の栄養分に変化させる働きをしていることを知り、ミミズを利用して生ごみの堆肥化に挑戦しました。校庭でシマミミズというミミズを採集しましたが、数が足りないので専門業者から購入して一千匹のミミズを用意しました。ペットボトルを再利用した容器にミミズを入れ、野菜くずなどの生ごみをえさにして飼育し、ミミズの体重測定やえさの変化の様子、卵胞(ミミズの卵)などを観察しました。

また、学校の近くの万有製薬株式会社を訪問し、食堂の生ごみ処理施設を見学しました。ここでは、微生物を使って生ごみを分解して堆肥にしています。そこで、いろいろと調べ、「えひめA1-2」という身近な材料で作れる微生物で堆肥を作る方法を試してみました。



ミミズの採集(長井小)

こうした観察や研究を通して、ミミズが野菜くずなどを食べて肥料にすることがわかりました。また、私たちの生活に役立つ微生物が身近にたくさんいることもわかりました。

♣️水環境調査(6年生)

学校のまわりは川や用水路に囲まれていて、その水は利根川に流れ込んでいます。

また、この地域の水道水には利根川の下水から取水した水が20%含まれています。このことから、身近な川の汚れはその水を飲む人間の健康に害を与えると考え、地域の川や用水路の水質を調べました。

身近な水環境を守るため、私たちの日常生活で気をつけなければならぬことを考え、それを実行する必要性を強く感じました。

♣️3組クリーン作戦をしたよ(3組)

総合的な学習の時間を利用して、地域のごみ拾い活動をしました。2回のごみ拾いで5袋のごみが集まり、燃えるごみ・粗大ごみ・缶・びん・ペットボトルに分別しました。これからも自分たちでできる活動を続けることで、市田の自然を守っていききたいと思いました。

♣️ぼくらは切れ所沼探検隊(4年生)

総合的な学習の時間を利用して、切れ所沼の生き物調べをしました。植物や昆虫などを観察し、「生き物ピラミッド」を作り、自分のテーマで本や新聞にまとめました。身近に豊かな自然があることを知り、大切にしたいと思いました。

♣️だじょうぶが？私たちの住むまちは(5年生)

地域を流れる川や用水路の水質や周辺の環境について調べ、水の汚れの原因のほとんどが生活排水であることがわかりました。

また、この地域の水道水には利根川の下水から取水した水が20%含まれています。このことから、身近な川の汚れはその水を飲む人間の健康に害を与えると考え、地域の川や用水路の水質を調べました。



水質検査の体験学習(長井小)

また、この地域の水道水には利根川の下水から取水した水が20%含まれています。このことから、身近な川の汚れはその水を飲む人間の健康に害を与えると考え、地域の川や用水路の水質を調べました。

♣️地球の環境・市田の環境を守る(6年生)

キッズISOのプログラムを追加実践として、油污れを紙でふき取るなどの小さな取組みを通じて、環境保護の意識をさらに高めることができました。また、身近な池や川の生物を調べ、生き物が住みやすい環境にしようと、ごみ拾いに取組み、今後さらにこの活動を広げていくことにしました。



発表会の展示コーナー(長井小)



田植えの体験学習(市田小)

また、この地域の水道水には利根川の下水から取水した水が20%含まれています。このことから、身近な川の汚れはその水を飲む人間の健康に害を与えると考え、地域の川や用水路の水質を調べました。

これからも、身近な川の観察を続け、家庭排水の量を減らすこと、食用油や調理くずなどを川に流さないことなど、私たちにできることを実行していきたいと思いましたが、

秦小学校

『見つめよう・守ろう』 秦の自然と環境

地域や身近な環境について、総合的な学習や生活科の時間を中心に、学年ごとのテーマを決め、調査したことを発表しました。

◆自然と遊ぼう(1年生)

季節ごとに学校の近くを流れる利根川の土手に出かけ、植物や虫と遊び、自然とのふれあいを通して、自然への関心を高めることができました。また、育てたアサガオの花を押し花にして、発表会の来場者にプレゼントしました。



元気に発表できました(秦小)

◆野菜みこしのできるまで(2年生)

学校の農園で育てた野菜を給食で味わったり、1年生にプレゼントしたりしました。



野菜みこし製作(秦小)

また、おみこしに野菜のレプリカを飾り付け、自然の恵みに感謝し、地域が豊かな土地に恵まれていることを実感することができました。

◆秦地区の宝・あばれみこし(3年生)

秦の宝であり、誇りでもある大杉祭りの「あばれみこし」を調べ、地域の人に教えてもらったお囃子を発表会で披露しました。

◆私たちと利根川(4年生)

利根川の上流から下流までの様子を資料や現地を訪ねて調べました。利根川の水質や植物の名前を調べることで、利根川の水があまり汚れていないことに安心し、植物の不思議さや素晴らしさをあらためて知る機会になりました。

◆身近な環境(5年生)

一人ひとりがテーマを決めて、「空気や水の汚れ」や「地域のごみ調べ」などの活動



利根川調べ(秦小)

地域の様々な場所で行いました。空気の汚れやごみの多さについて知ることができたと同時に、自分たちにできることは何かについて考える良い機会になりました。

◆わが家の環境を見つめ直そう(6年生)

キッズISOのプログラムを通して、家庭での電気や水道、ガスの使用量を調べ、「今、自分にできること」の作戦を立て、実行しました。自分

ちの少しの行動で環境が守られることを肌で感じることができました。

そのほかに、全学年の活動として、菊の一人一鉢栽培や通学路クリーン作戦、地域の人たちのごみゼロ運動を行いました。

21世紀は、今まで以上に環境が重要視される時代といわれています。私たちは有史以来、水や空気などの自然の恵みを当たり前のよう受け取ってきました。しかし、それらを使うだけ使ってそのまま吐き出していた時代がありました。地球温暖化、オゾン層の破壊などの環境問題が身近で重要なテーマとして取上げられるようになった現在、私たちは、便利で快適な生活を手に入れるために、地球に大きなダメージを与えてきたことに気がつくきました。

この「身近な環境の研究発表会」を通して、ふるさとの川や森が自然豊かであることが本当の豊かさであることを学ぶことができたのではないのでしょうか。

ご協力をいただいた学校と地域の皆さんにお礼を申し上げます。